

## 第67章 finally節



try-catch構文を抜け出すときに、必ず実行したい処理をfinallyブロックに書くことができます。

try-catch構文の後ろに続けてfinally節を書きます。例外が発生しても、しなくてもfinallyブロックは実行されます。

```
// finally01.cs

using System;

class finally01
{
    public static void Main()
    {
        try
        {
            Console.Write("何か数字を入力してください---");
            string str = Console.ReadLine();
            int x = Int32.Parse(str);
            int y = x / 2;
            Console.WriteLine("今入力した数字を2で割ると{0}です", y);
        }
        catch (Exception e)
        {
            Console.WriteLine("例外が発生しました");
            Console.WriteLine(e.Message);
        }
        finally
        {
            Console.WriteLine("finallyです");
        }
    }
}
```

見てわかるように、「数字を入力してください」数字以外の文字を入力すると例外が発生します。

言われたとおり、数字を入力するとその半分の値を出力します。

どちらの場合も「finallyです」という文字列が出力されます。

実行結果は、次のようになります。

数字を入力しなかったために、例外が発生しています。

例外が発生しても、「finallyです」という文字列は表示されます。

今度は、例外は発生していません。

「finallyです」という文字列は表示されます。

さて、このプログラムの場合最後の

```
Console.WriteLine("finallyです");
```

は、わざわざfinallyブロックに書かなくても結果は同じになります。

ただ、プログラムの見通しをよくするという意味合いですね。

[\[C# Index\]](#) [\[総合Index\]](#) [\[Previous Chapter\]](#) [\[Next Chapter\]](#)

Update 12/Oct/2006 By Y.Kumei

当ホームページの一部または全部を無断で複写、複製、転載あるいはコンピュータ等のファイルに保存することを禁じます。